

今年の夏休みは、37日間です。夏休みは、酷暑の期間中家庭で過ごすことが目的であり、学校生活の延長と言えます。そのため学年ごとに課題が出されます。夏休みには、学習・遊び・手伝い等をバランスよく行うことが大切です。そこで各ご家庭では、お子様が「勉強したくなる環境づくり」を是非心がけてみてください。

ここでは、3つのキーワードをかかげました。

## 1 夢中で遊ぶお子様が伸びる

(1)	夢中で遊んだ経験があるお子様は、学習意欲が高く、勉強ができる傾向にあります。学力は、「勉強しなさい」と言われて伸びるのものではなく、主体的な学ぶ中で伸びます。自らやりたいことを積極的にやろうとする態度＝ <b>主体性</b> が育っていることが大切です。
(2)	夢中で遊んだお子様は、探求する楽しさを分かっています。新しい発見をすると「これはどういうことだろう?」「もっと知りたい」さらに「こうした方がもっと面白くなる」と現状を楽しくする方法を知っています。こうした <b>主体的な態度があるお子様</b> は自然と勉強にも関心を待つようになります。

## 2 空いた時間の過ごし方を工夫する

(1)	主体的なお子様ที่育つ家庭環境には、空いている時間の過ごし方に特徴があります。テレビを見て過ごすだけでなく、図鑑を読んだり、楽器を弾いたり、パズルを組み立てたり等自分が <b>主体的にかかわって成り立つ遊び</b> や体験をしています。
(2)	今、お子様の生活空間は、たくさんの情報であふれています。テレビやインターネットから受動的に得られる情報に刺激され行動を決める機会が多くなっています。自分が「何をしたいのか」を考えなくても生活できます。 だからこそ、親が意識して、空いた時間に「今日はどうのような面白いことやろうかな」と <b>主体的に考えられる</b> お子様に育てたいものです。

## 3 ゲーム中心から、主体的な経験をさせる

(1)	ゲームの問題点は、「自分で考える機会が少ない」ことです。反射神経だけを競うようなものばかりですが、ただ親が一方的にゲームを取り上げたり、やらせないことはお子様の反発を買うだけです。お子様の生活実態に応じてゲームとの付き合い方を考える必要があります。 理想は、ゲームだけでなく、他の <b>主体的な経験</b> も積ませることです。
-----	--

### 宿泊学習思い出の〜コマ (7月4日〜6日)

